

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 江差病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	17	-	ド透訓	救臨感へ災輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	12,101	-	第2種該当	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

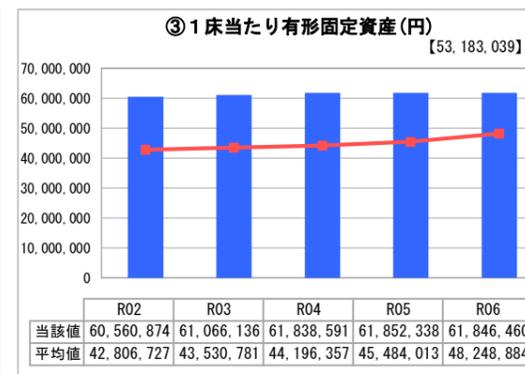
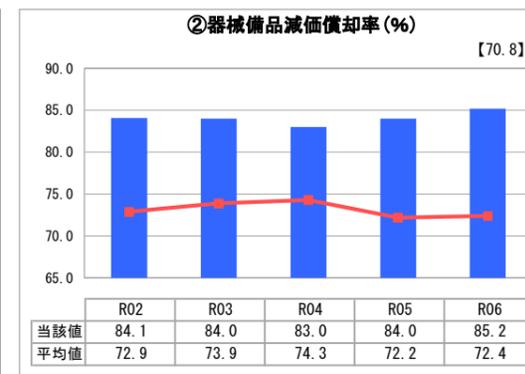
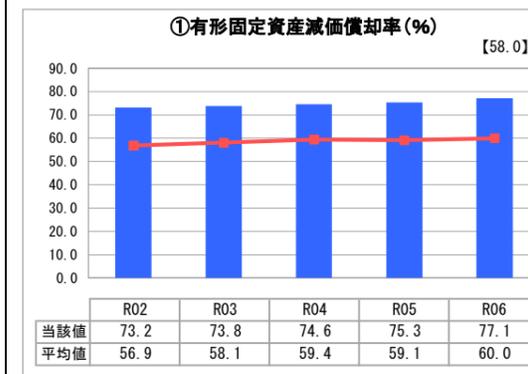
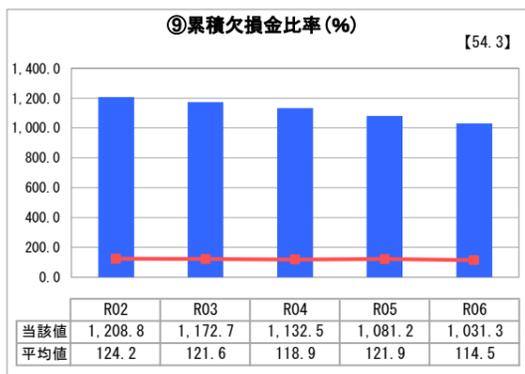
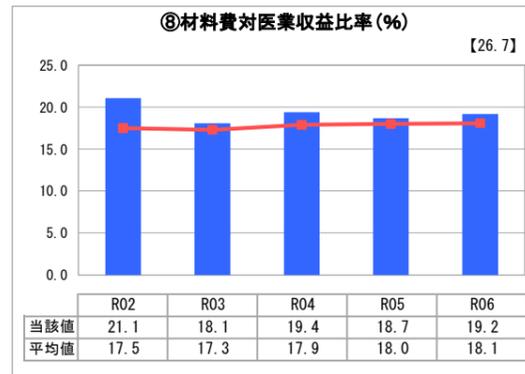
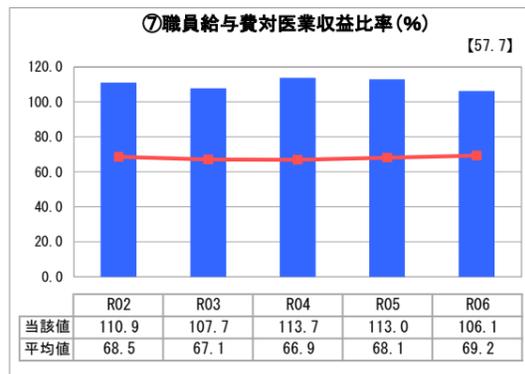
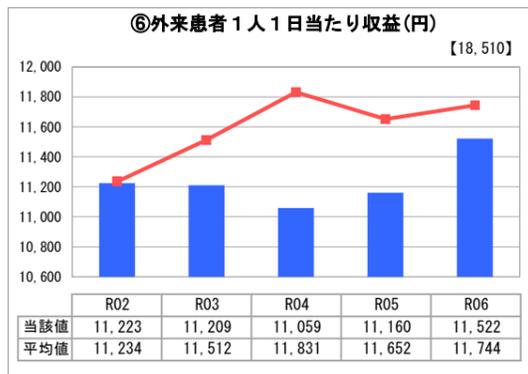
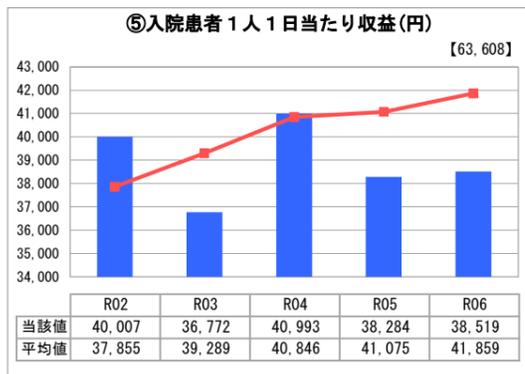
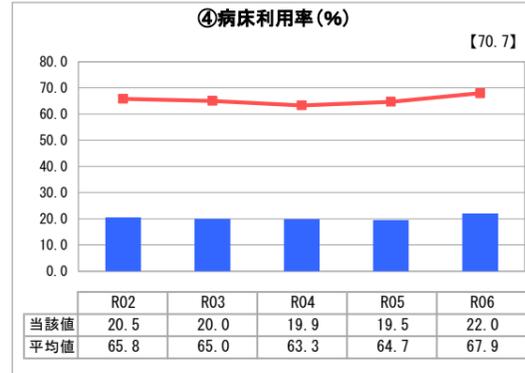
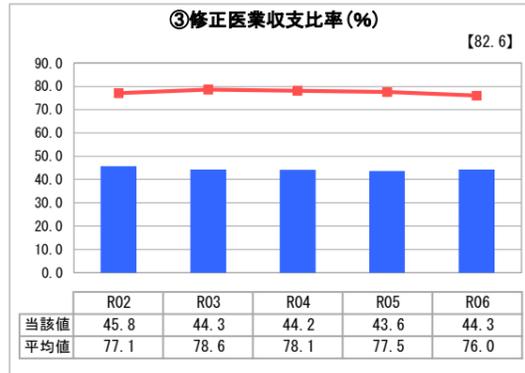
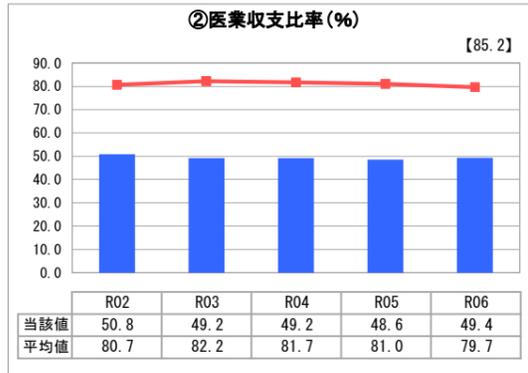
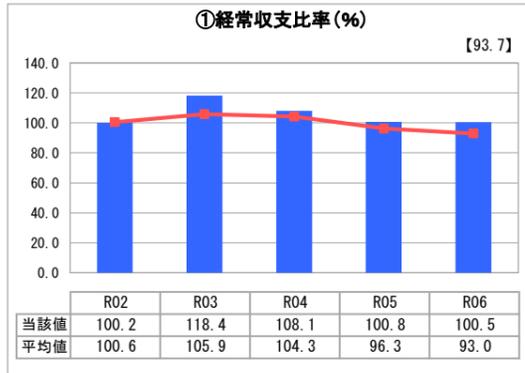
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
146	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
48	4	198
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
68	-	68

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## I 地域において担っている役割

南檜山第二次医療圏における地域センター病院として、圏域で唯一の精神科医療の提供及び人工透析を実施するとともに、救急医療機関として輪番制に参画していることや、災害拠点病院の指定を受け、災害発生時にはDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣体制を整備するなど、救急医療や災害医療の中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、新型コロナウイルス関連補助金の終了により昨年度と比較わずかに低下しているが、100%を上回っており、類似病院平均値を上回っている。  
④病床利用率については、感染症や骨折等の患者の増加により昨年度より上昇したが、類似病院平均値を大きく下回っている。  
⑦職員給与費対医業収益比率については、医業収益が増加したことに加え、職員数が減少したことにより給与費が減少し、昨年度より低下したが、類似病院平均値を大きく上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②器械備品減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用していることから、類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。  
③1床当たり有形固定資産については、医療機器の処分等により微減した。

## 全体総括

人口減少や新型コロナ禍後の受診行動の変化により、今後も患者数の回復が見込めないことから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の確保に努めながら、効率的な費用の執行が必要となる。  
また、「2. 老朽化の状況について」の指標である①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率ともに上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した医療機器等の更新を進めつつ、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 羽幌病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	-	ド透	救臨へ
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	8,702	第1種該当	-	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

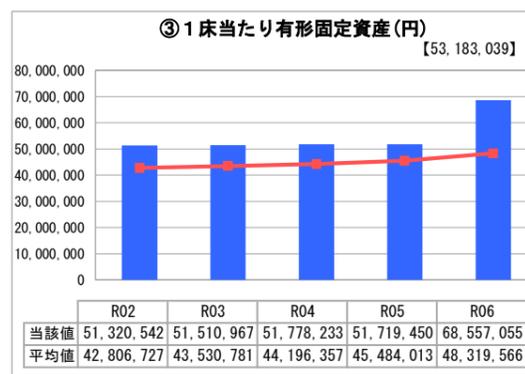
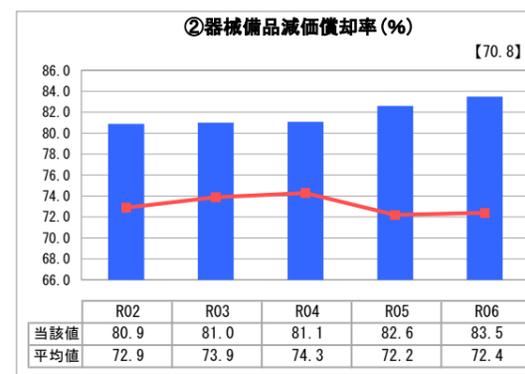
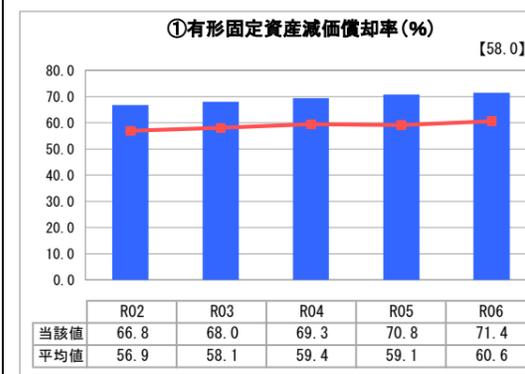
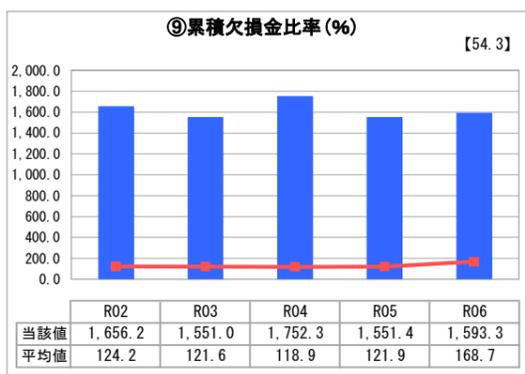
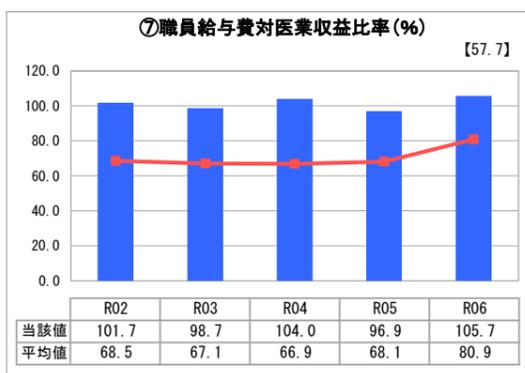
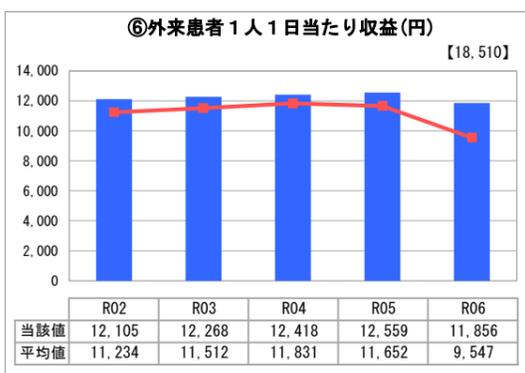
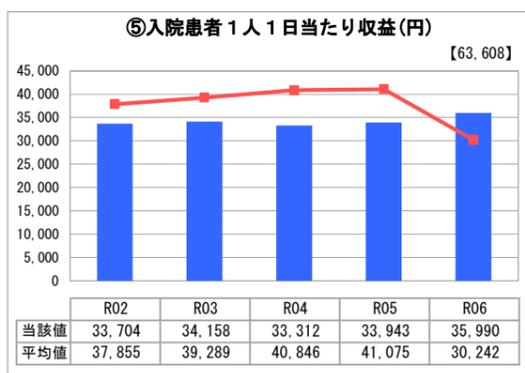
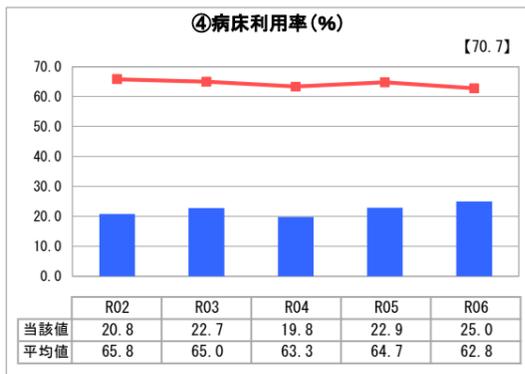
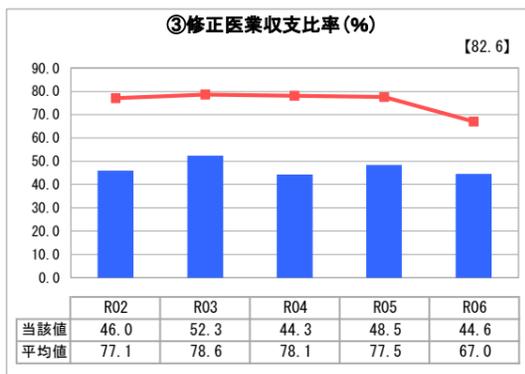
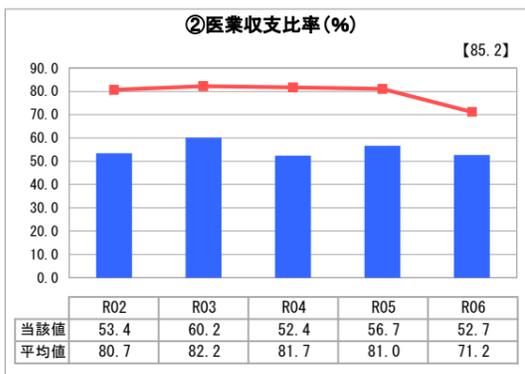
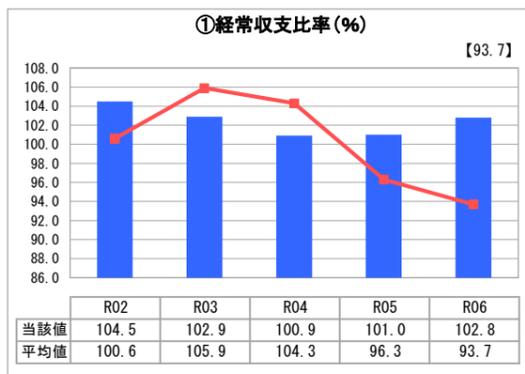
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
91	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	91
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
38	-	38

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

### I 地域において担っている役割

留萌第二次医療圏における地域センター病院として、同一圏域のセンター病院や地域の医療機関と連携を図るとともに、人工透析を実施している。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、新型コロナウイルス関連補助金が終了したが、町内民間病院の閉院に伴い患者数が増加し、前年度及び類似病院平均値を上回っている。  
 ② 外来患者1人1日当たり収益については、単価の高い透析患者減により減少した。  
 ③ 職員給与費対医業収益比率については、医業収益が減少したことにより昨年度と比較して上昇し、類似病院平均値を大きく上回っている。  
 ④ 材料費対医業収益比率については、医業収益が減少したほか、外来患者数増加に伴い医療材料の購入量が増加したことにより昨年度と比較して上昇し、類似病院平均値を上回っている。

#### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率及び② 器械備品減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用をしていることから、類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。  
 ③ 1床当たり有形固定資産については、病床数を削減した影響により上昇している。

### 全体総括

人口減少や新型コロナ禍後の受診行動の変化により、今後も患者数の回復が見込めないことから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の確保に努めながら、効率的な費用の執行が必要となる。  
 また、「2. 老朽化の状況について」の指標である①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率ともに上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した医療機器等の更新を進めつつ、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 緑ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	2	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	13,670	非該当	非該当	15 : 1

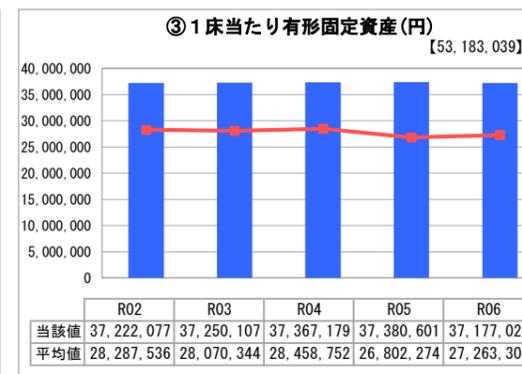
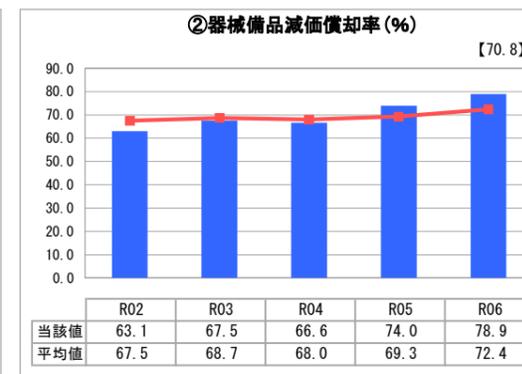
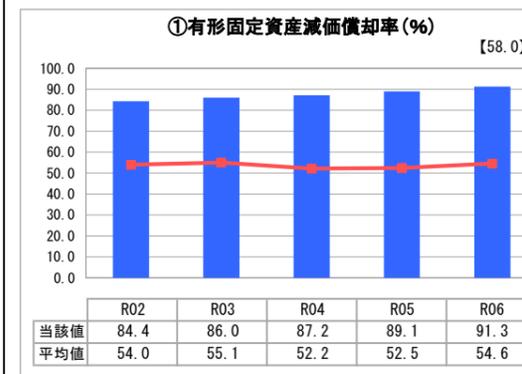
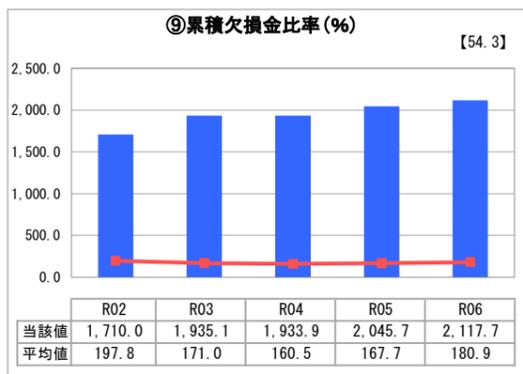
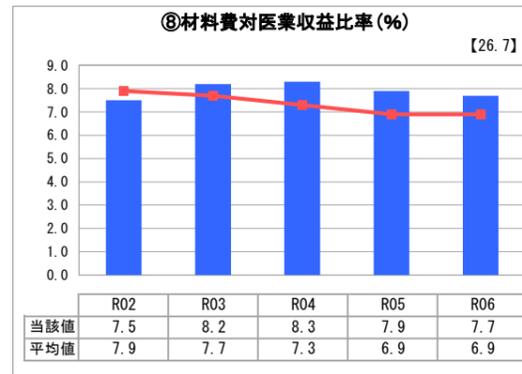
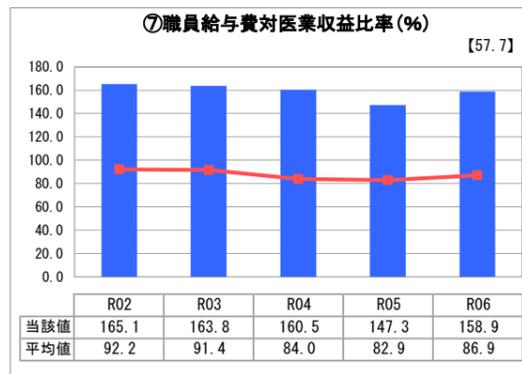
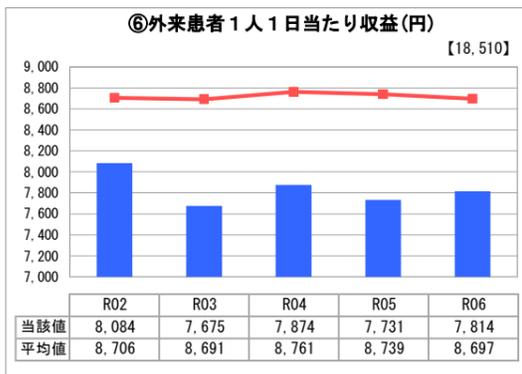
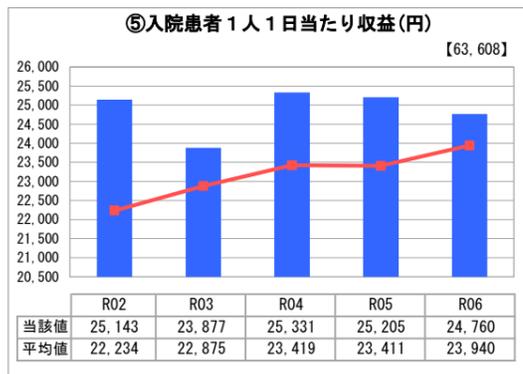
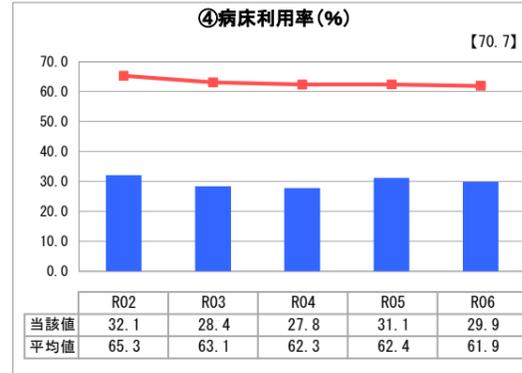
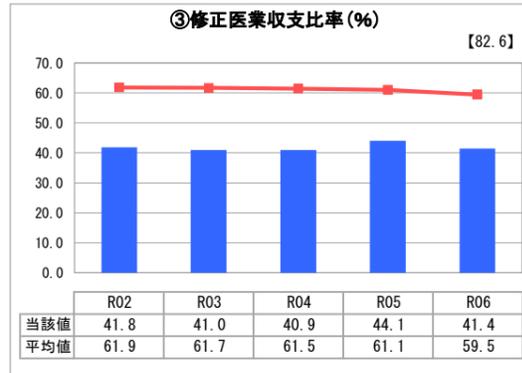
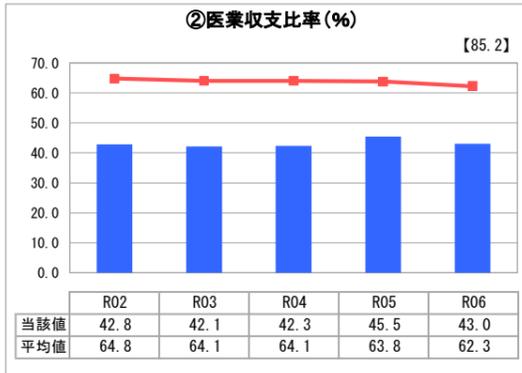
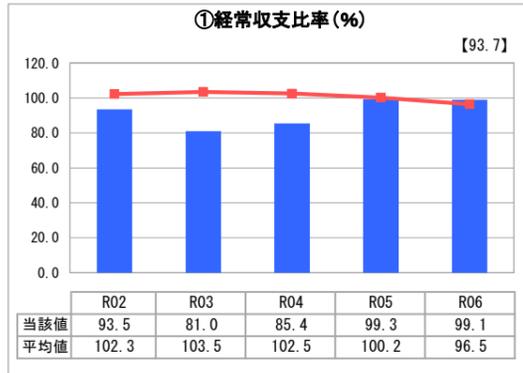
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
168	-	168
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

### I 地域において担っている役割

十勝第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、平成27年3月から精神科救急入院料病棟の運用を開始し、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、圏域で唯一となる児童・思春期精神科医療の専門外来や専用病床を有するなど、圏域における精神科医療の中心的な役割を担っている。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、延べ患者数及び精神科救急入院料病棟の利用率減少に伴う医業収益の減少や、給与費の増加により昨年度と比較して低下しており、類似病院平均値と同程度となっている。  
②入院患者1人1日当たり収益については、精神科救急入院料病棟の利用率減少などにより、昨年度と比較して減少したが、類似病院平均値を上回っている。  
③職員給与費対医業収益比率については、医業収益が減少したことにより昨年度と比較して上昇し、類似病院平均値を大きく上回っている。  
④材料費対医業収益比率については、患者数減少に伴い医薬品の購入量が減少したことにより昨年度と比較して低下したが、類似病院平均値を上回っている。

#### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率②器械備品減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用していることから類似病院を上回っており、老朽化が進んでいる。  
③1床当たり有形固定資産については、医療機器の処分等により微減した。

#### 全体総括

人口減少や新型コロナ禍後の受診行動の変化により、今後も患者数の回復が見込めないことから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の確保に努めながら、効率的な費用の執行が必要となる。  
また、「2. 老朽化の状況について」の指標である①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率ともに上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した医療機器等の更新を進めつつ、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 向陽ヶ丘病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	2	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	7,074	非該当	非該当	15:1

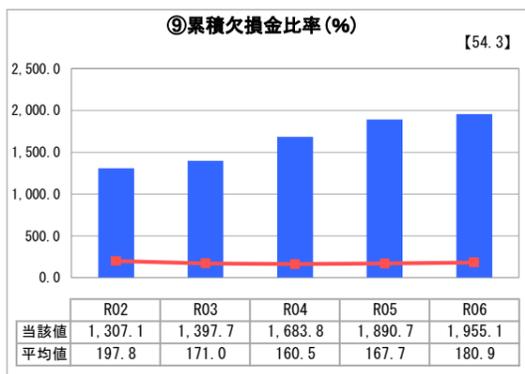
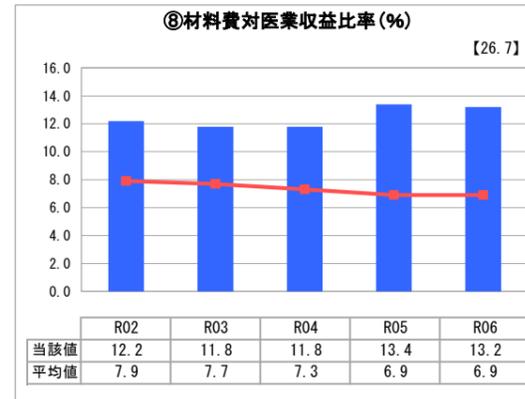
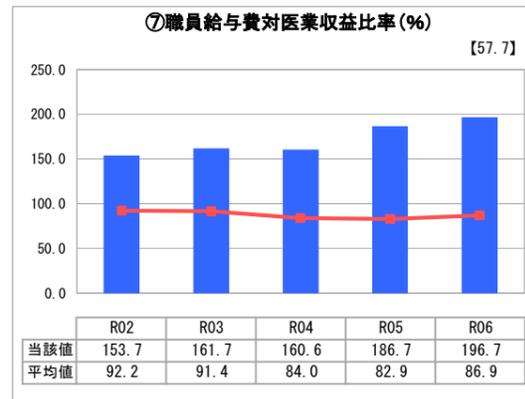
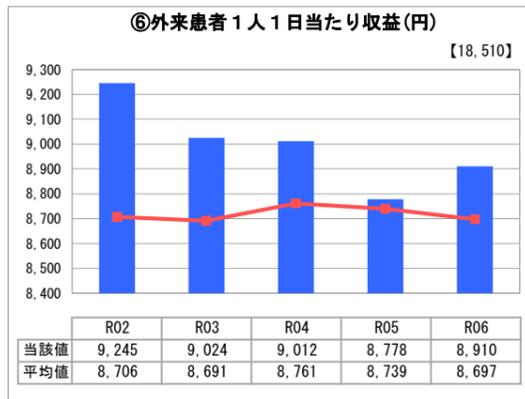
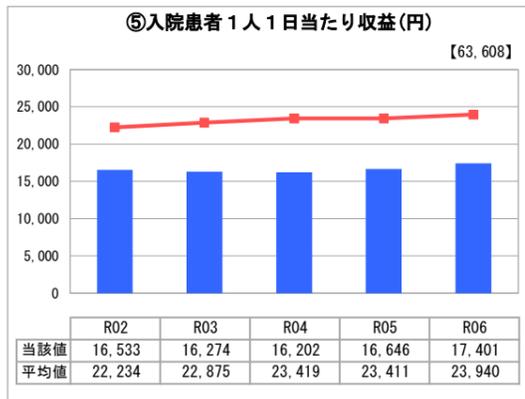
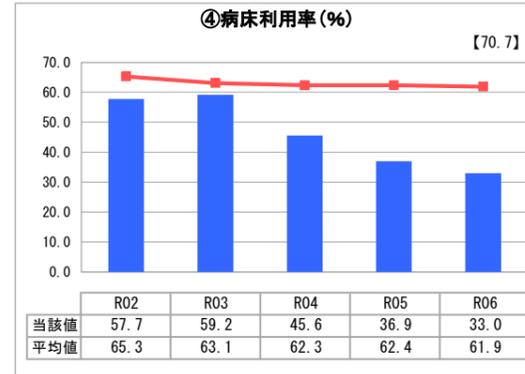
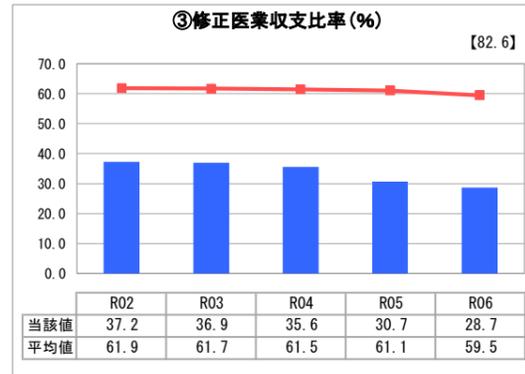
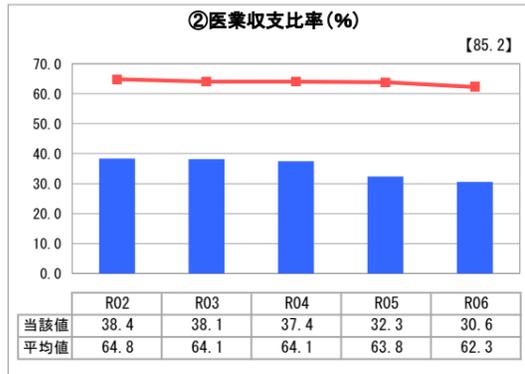
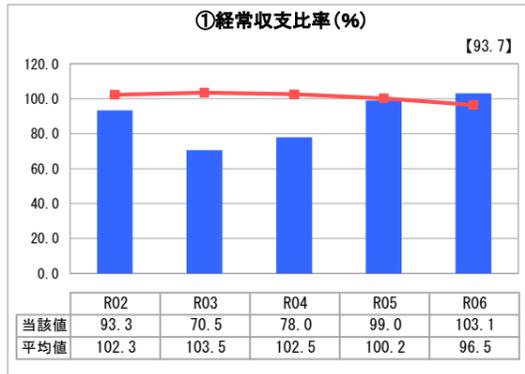
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

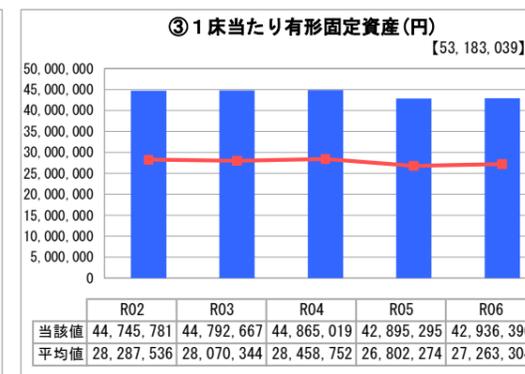
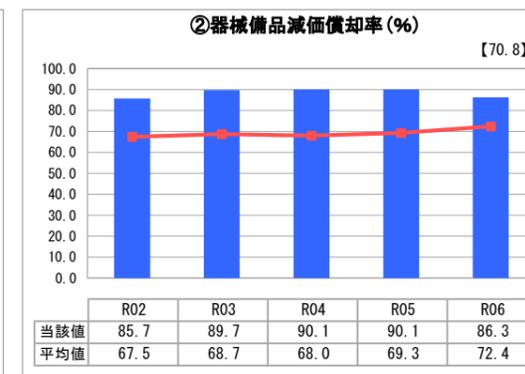
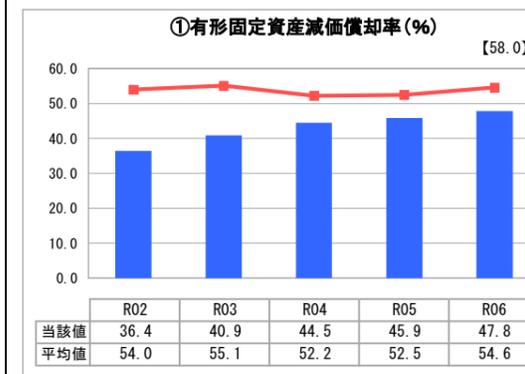
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
105	-	105
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[ ]	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏における精神科救急及び急性期医療の病院として、入院後の早期の地域生活への移行や、退院後の訪問看護等による在宅支援、平成26年度に開設した認知症疾患医療センターによる専門医療などにより、圏域における精神科医療の中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、患者数の減少により、入院・外来ともに医業収益は減少したが、一般会計からの繰入金増加により昨年度と比較して上昇しており、類似病院平均値を上回っている。一方で、②医業収支比率、③修正医業収支比率及び④病床利用率については、令和4年度以降、長期入院患者の地域移行が進んだことにより低下傾向となっており、昨年度と比較して減少し類似病院平均値を大きく下回っている。  
⑤入院患者1人1日当たり収益については、入院ベースアップ評価料や精神科棟入院時医学管理加算の算定を開始したことで昨年度と比較して増加したが、入院料において類似病院と異なり、指定医の人数が施設基準の要件を満たさない等の理由により、精神科救急急性期医療入院料などの特定入院料の算定が不可であることから、類似病院と比較して平均値を下回っている。  
⑥外来患者1人1日当たり収益については、内科系他医療機関に通院していない患者に対し状態に応じた検査を積極的に実施したことにより昨年度と比較して増加しており、類似病院平均値を上回った。  
⑦職員給与費対医業収益比率については、医業収益が減少したことにより昨年度と比較して上昇しており、類似病院平均値を大きく上回っている。  
⑧材料費対医業収益比率については、後発医薬品への切替えや費用削減に努めたことにより、昨年度と比較してわずかに減少したが、医業収益が少ないため類似病院平均値を大きく上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用をしていることから、昨年度より上回っているものの、平成28年度の病院改築の影響により類似病院平均値を下回っている。  
②器械備品減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用をしていることから、類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。一方で、一部医療機器を更新したことにより前年度と比較して低下した。  
③1床当たり有形固定資産については、医療機器等の購入により微増した。

## 全体総括

人口減少や新型コロナウイルス禍後の受診行動の変化により、今後も患者数の回復が見込めないことから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の確保に努めながら、効率的な費用の執行が必要となる。  
また、「2. 老朽化の状況について」の指標である①有形固定資産減価償却率が上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した医療機器等の更新を進めつつ、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 北見病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(利用料金制)	6	-	透 訓	臨
人口(人)	建物面積(m <sup>2</sup> )	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	5,378	非該当	非該当	7:1

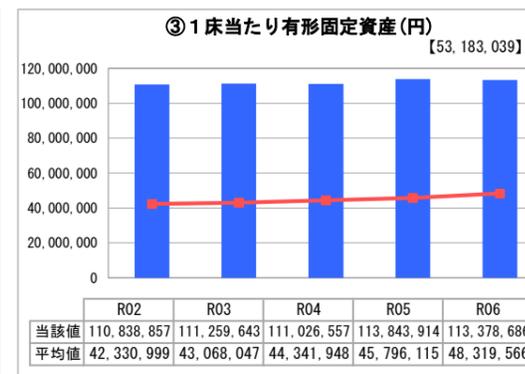
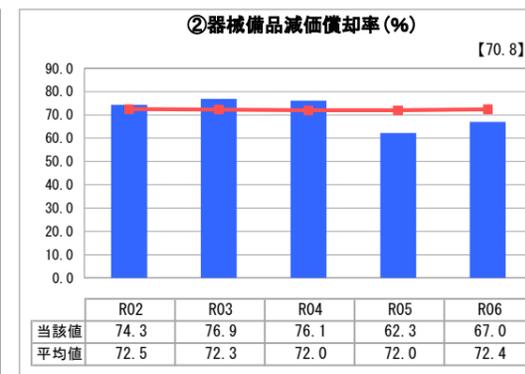
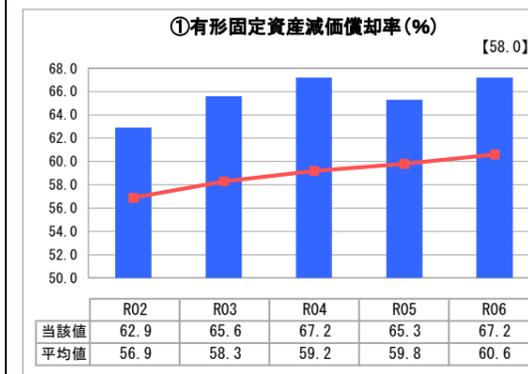
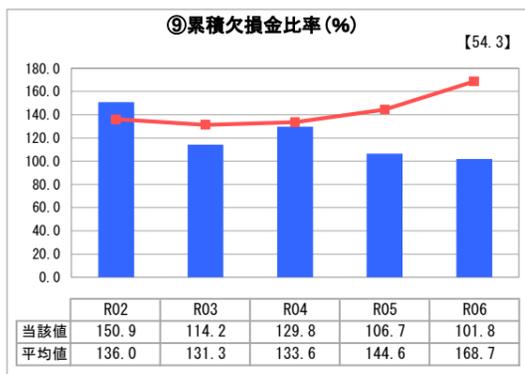
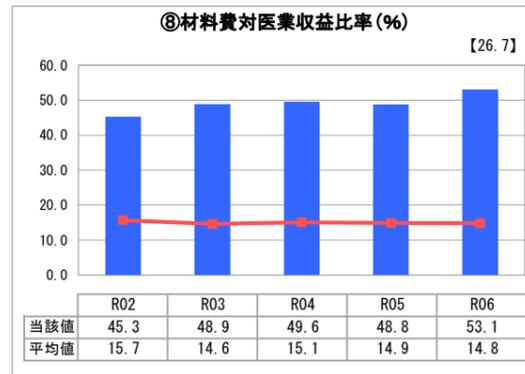
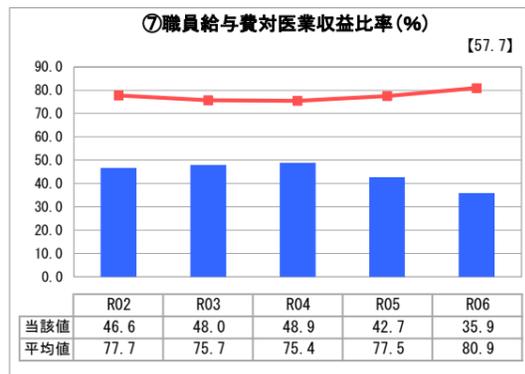
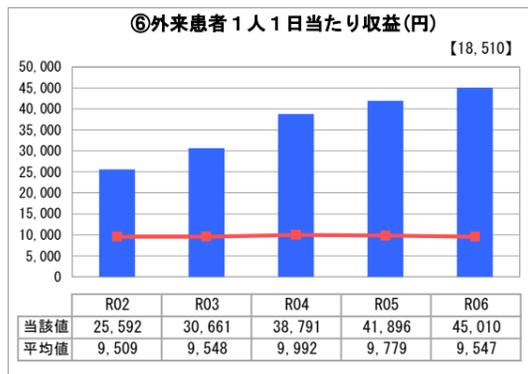
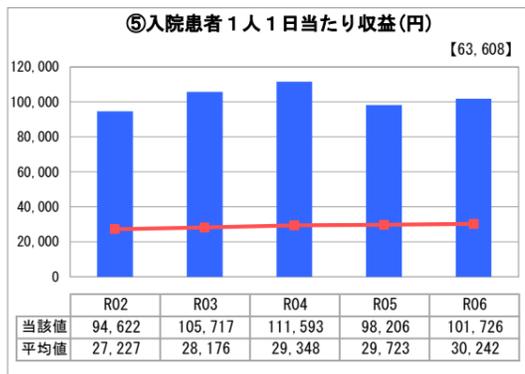
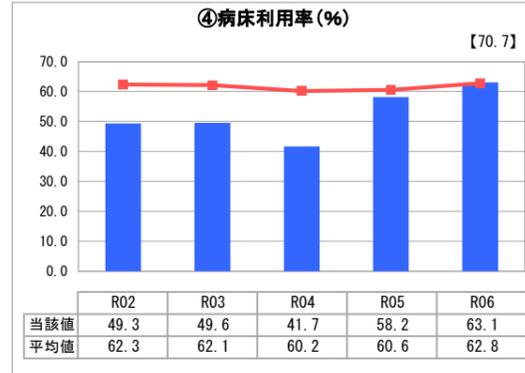
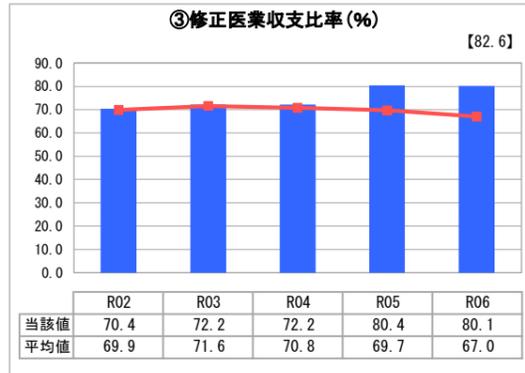
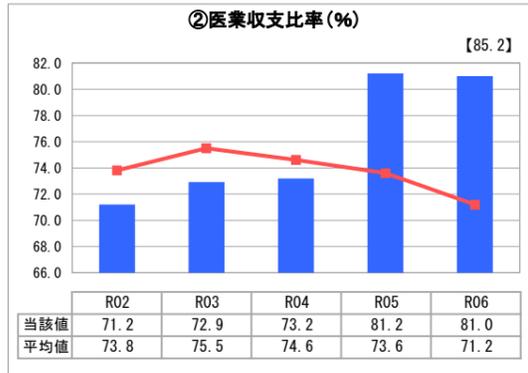
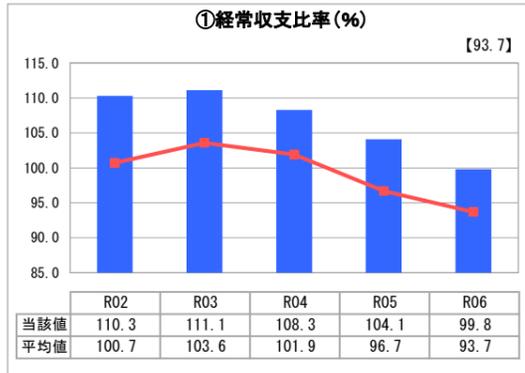
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
70	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	70
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
59	-	59

■ 当該病院値(当該値)
— 類似病院平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組(直近の実施時期)

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	平成30 年度

## I 地域において担っている役割

オホーツク第三次医療圏で唯一、心臓血管外科手術を実施するなど、圏域における循環器・呼吸器疾患の高度・専門医療の中心的な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、入院・外来ともに収益が増加したが、物価高で材料費などの費用も増加したことから昨年度と比較して低下している。  
②医業収支比率及び③修正医業収支比率については、収益は増加したが、心臓血管外科の手術件数増加に伴い材料費が増えたことにより、昨年度と比較して横ばいとなるが、類似病院平均値を上回っている。  
④病床利用率については、呼吸器内科の入院患者数及び心臓血管外科の手術件数が増えたことにより上昇し、類似病院平均値と同程度となっている。  
⑤入院患者1人1日当たり収益については、収益単価の高い心臓血管外科や循環器内科の手術や処置が増えており、⑥外来患者1人1日当たり収益については、呼吸器内科において行われている化学療法による注射収入が増えたことにより増加したため、いずれも類似病院平均値を大きく上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、医療機器等を耐用年数が過ぎてからも使用をしていることから、類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。  
②器械備品減価償却率については、令和5年度に更新した医療機器等に伴う減価償却費の影響により増加している。  
③1床当たり有形固定資産については、医療機器を処分した影響により微減した。

### 全体総括

「1. 経営の健全性・効率性について」の指標である、⑤⑥入院及び外来患者1人1日当たり収益は、入院患者数の増加や心臓血管外科手術件数及び呼吸器内科の注射収入の増加等により前年度と比べ上昇・増加している。  
指定管理者制度による運営を継続し、引き続き、経営の健全化・効率性について検証していく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 子ども総合医療・療育センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	22	対象	I 未 訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
5,044,825	18,116	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

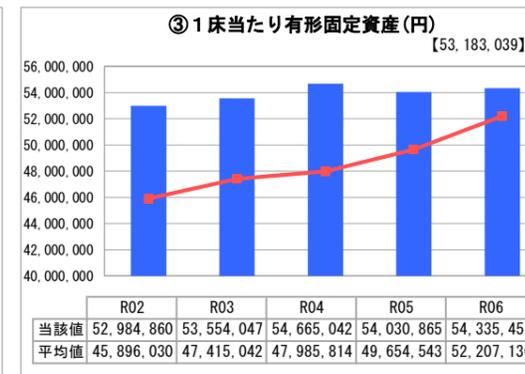
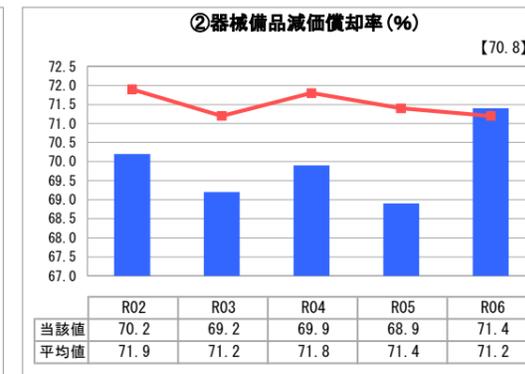
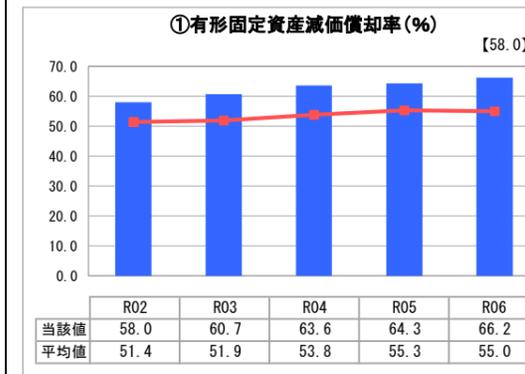
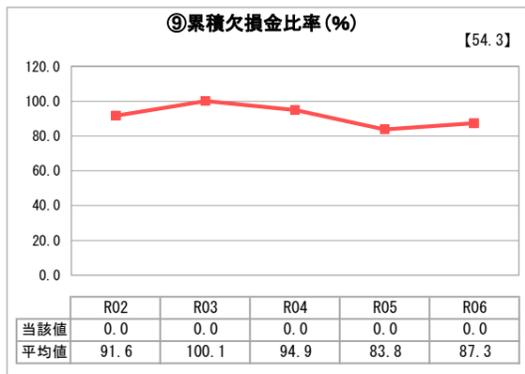
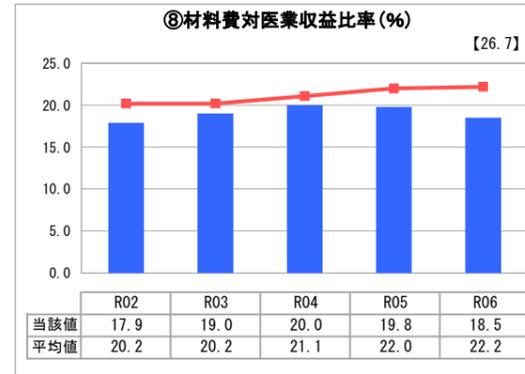
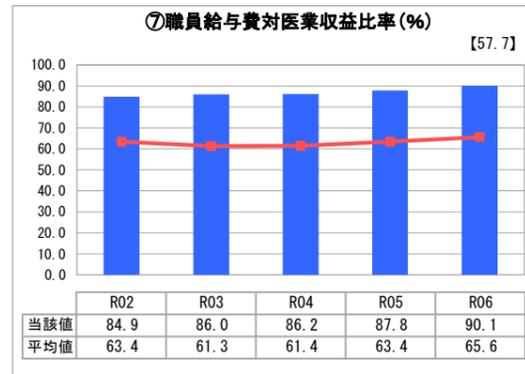
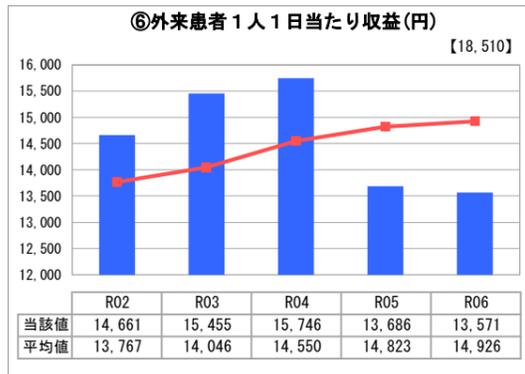
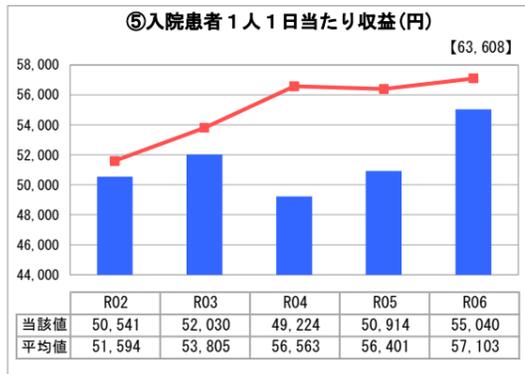
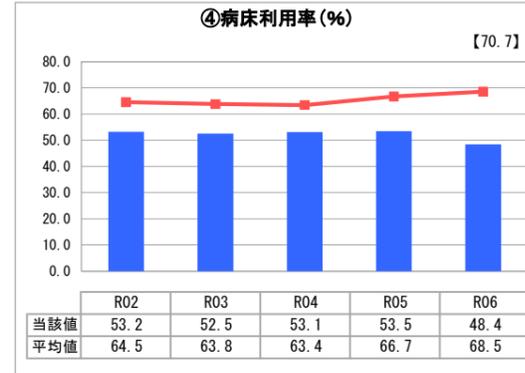
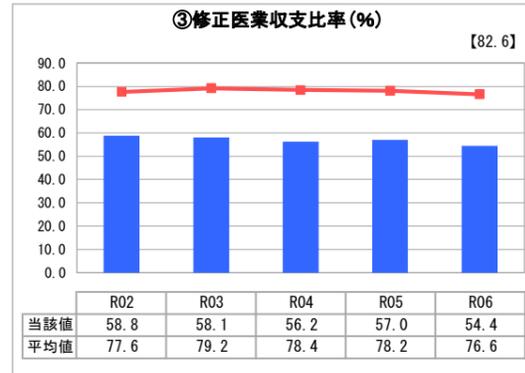
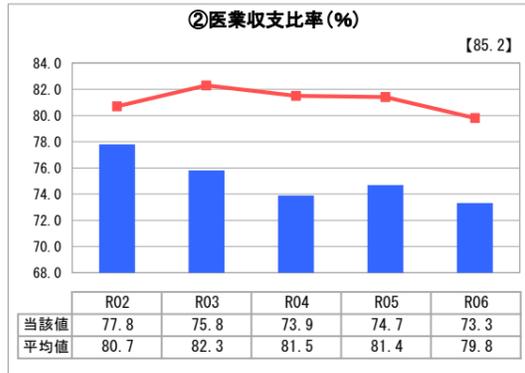
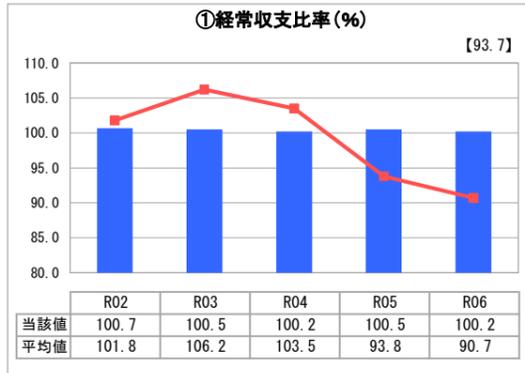
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
215	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	215
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
148	-	148

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

### I 地域において担っている役割

北海道全域を圏域としており、ハイリスクの胎児や新生児に対する特殊な周産期医療を提供する特定機能周産期母子医療センター機能、先天性心疾患等への高度医療を提供する循環器病センター機能、医学的リハビリテーション等を提供する総合発達支援センター機能を有しており、医療部門と療育部門が連携した複合的な役割を担っている。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、入院患者が減少したことにより医業収益が減少したが、一般会計からの繰入金が増加したことにより、令和4年度と同水準を保ち、類似病院と比較して減少率が少ない結果となった。② 医業収支比率、③ 修正医業収支比率及び④ 病床利用率については、新たな治療（頭のかたち外来）を実施する等、収益確保の取り組みを行っているが、患者数が減少したことに伴いそれぞれの比率も減少している。類似病院との比較として、病床利用率については、ハイリスクの胎児や新生児の紹介患者のみ受け入れているため、救急患者受入件数が少ないことや、療育部門に入院する患者の病状が変化し、入院を必要とする患者が減少しているなどの理由により、類似病院の平均値を下回っている。⑤ 入院患者1人1日当たり収益についてはDPCを導入したことに伴い、出来高制と比較して診療単価が増加したため、昨年度より上昇した。⑥ 外来患者1人1日当たり収益については、特定の診療科において在宅医療管理料や高額薬剤が減少したため、低下した。

#### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、医療機器等を耐用年数を過ぎても使用していることから、類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。② 器械備品減価償却率については、令和5年度に更新した医療機器に伴う減価償却費の影響により上昇している。③ 1床当たり有形固定資産については、医療機器の購入等により微増している。

#### 全体総括

人口減少や新型コロナ禍後の受診行動の変化により、今後も患者数の回復が見込めないことから、引き続き、診療報酬請求の適正化による医業収益の確保や、圏域内において必要とされる機能の確保に努めながら、効率的な費用の執行が必要となる。また、「2. 老朽化の状況」の指標である①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあるため、耐用年数を経過した設備等の更新を進めつつ、医業収益の確保を図ることが必要となる。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。